

北海道キッコーマン樹林地の紹介

2025年（令和7年）11月

キッコーマン(株)

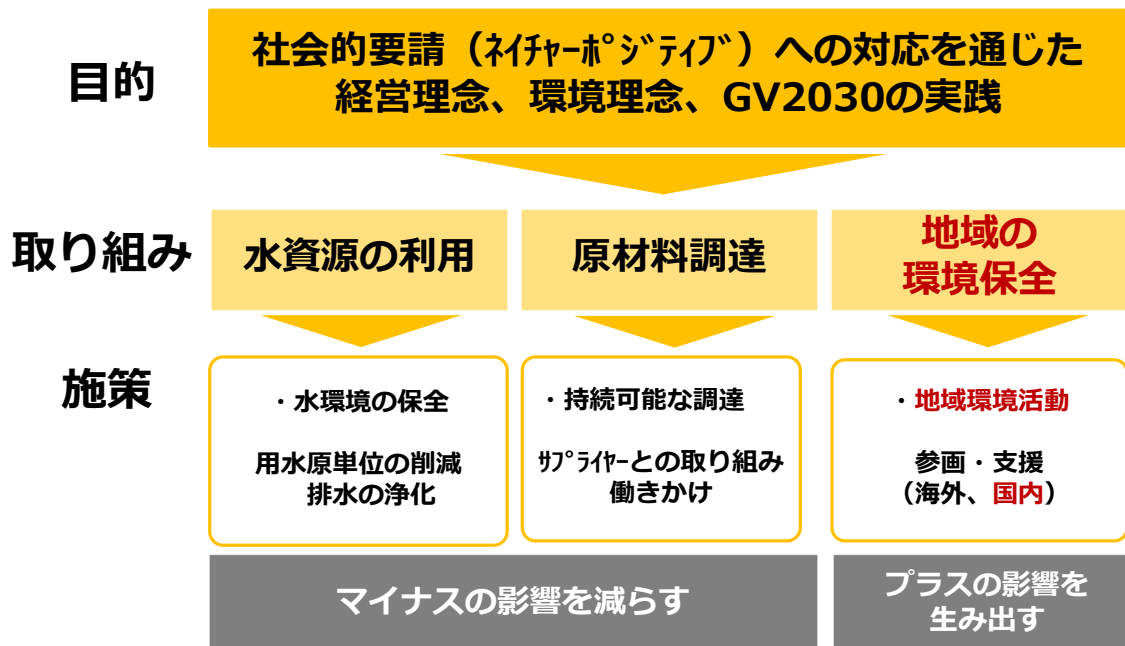
北海道キッコーマン(株)

1

自然共生サイト取得の経緯

2

キッコーマンの生物多様性への取り組み



3

経緯の説明

- キッコーマン株式会社の生物多様性保全の取り組みを進めるにあたり、ネイチャー・ポジティブを目指している。
- 取り組みには3つあり、マイナスの影響を減らす「水資源の利用」「原材料調達」とプラスの影響を生み出す「地域の環境保全」がある。
- 国内での「地域環境保全」候補を探し、北海道キッコーマン樹林地が森林保全の対象にならないかと考えた。
- 北海道キッコーマン(株)に連絡を取り、資料をもらい、千葉県で講師をされていた(財)日本自然保護協会の高川先生に相談にいったところ、「自然共生サイトとしての可能性がある」とのことで、専門家の紹介を受けた。
- 専門家である(株)地域環境計画 千歳支社にまず概査を依頼し、「ポテンシャルがある」とのことで、詳細調査を開始した。
- (株)地域計画の支援を受け、約2年間の調査を纏めて申請し、令和6年後期に自然共生サイト認定を受けた（令和7年8月OECDに登録された）。

4

自然共生サイト（北海道キッコーマン樹林地）の概要

5

R6後期 サイト名 北海道キッコーマン 樹林地 申請者： キッコーマン株式会社

場所 北海道千歳市

面積 2.56ha

活動目的 樹林で確認された**7種の希少種を保全し、
樹林を活用**することを目的としている。



サイト概要 北海道千歳市西部の千歳臨空工業地帯に位置する、北海道キッコーマン株式会社の工場緑地である。ミズナラをベースに、サワシバ、アズキナシ、ミズキなどの少し湿った環境を好む樹木と、シラカンバが混ざる二次林である。
当サイトの周囲は工業団地であり、緑地は少ない。さらに工業団地周囲に残された自然も、トドマツやアカエゾマツなどの植林であるため、申請区域は希少な緑地である。**当サイトの落葉広葉樹林は約80年前から残存**しており、様々な生物が利用している。

6

土地利用の
変遷

1940年代 薪炭林として周辺が利用されていた。
 1979年 千歳臨空工業団地北側の造成がはじまる。
 1987年 キッコーマン株式会社千歳工場（現：北海道キッコーマン株式会社）竣工、
 工場の西側にはコの字型に樹林が残存している。
 1990年～2000年代 工場内の植林地が成長している。

サイト周辺の
環境

周囲は工業団地であり、申請区域は希少な緑である。
 北側には千歳川が流れ、東に直線距離20kmほどで支笏湖がある。
 道央道（千歳ICや新千歳空港IC）が近く、ICから車で5分ほどでアクセス可能である。
 新千歳空港へは、車で20分ほどでアクセスが良好である。

アピール
ポイント

植物1種、昆虫類2種、貝類3種、鳥類1種の希少種が確認されている二次林である。
 （2025年3月とりまとめ時点）
 工場見学に訪れた人が周囲の自然も含め楽しめるサイトである。

7

		生物多様性の価値に関する基準（環境省） 下記のいずれかの価値を有すること
場	1	公的機関等に生物多様性保全上の重要性が既に認められている場
	2	原生的な自然生態系が存する場
	3	里地里山といった二次的な自然環境に特徴的な生態系が存する場
	4	生態系サービスを提供する場であって、在来種を中心とした多様な動植物種からなる健全な生態系が存する場
	5	伝統工芸や伝統行事といった地域の伝統文化のために活用されている自然資源の場
種	6	希少な動植物種が生息生育している場又は生息生育している可能性が高い
	7	分布が限定されている、特異な環境へ依存するなど、その生態に特殊性のある種が生息生育している場又は生息生育の可能性が高い
機能	8	越冬、休息、繁殖、採餌、移動（渡り）など、動物の生活史にとって重要な機能
	9	既存の保護地域又は認定区域に隣接する若しくはそれらを接続するなど緩衝機能や連結性を高める機能

8

生物多様性の価値

価値（3）里地里山といった二次的な自然環境に特徴的な生態系が存する場

【場の概況】

当サイトは1940年ごろまで、薪炭林として周辺が利用されており、1940年代から残存する林齢80年以上の壮齢林が残っている。周辺はトドマツやアカエゾマツなどの植林が多いが、**当サイトは植生自然度7で、ミズナラにシラカンバが混ざる植生**である。

【主な植生】

環境省の2万5000分の1植生図では、シラカンバーミズナラ群落の凡例が適用されている。ミズナラをベースに、サウシバ、アズキナシ、ミズキなどの少し湿った環境を好む樹木と、シラカンバが混ざる二次林である。また、林縁にはアカエゾマツやトドマツが植林されている。

【確認された主な動植物など】

区域では、2023～2024年の現地調査において、**植物約180種、昆虫類約220種、貝類11種、鳥類約50種、哺乳類3種が確認**されている。確認した種の中には、環境省レッドリスト2020や北海道レッドデータブック等に掲載されている希少種も含まれている。（2025年3月とりまとめ時点）



写真の説明：ミヤマエンレイソウ



写真の説明：アカゲラ

9

生物多様性の価値

価値（4）生態系サービスの提供の場であって、在来種を中心とした多様な動植物種からなる健全な生態系が存する場

【場の概況】

当サイトは、調整サービスとして、防雪林としての役割を果たしている。また樹林地は1940年代から残存する林齢80年以上の壮齢林が残っている。

【主な植生】

（価値3の再掲）環境省の現存植生図では、シラカンバーミズナラ群落の凡例が適用されている。ミズナラをベースに、サウシバ、アズキナシ、ミズキなどの少し湿った環境を好む樹木と、シラカンバが混ざる二次林である。また、林縁にはアカエゾマツやトドマツが植林されている。

【確認された主な動植物など】

【主な確認種】

- （植物）ミズナラ、キタコブシ、ホオノキ、ミヤマエンレイソウ、ササバギンラン、サウシバ、アズキナシ、ミヤマザクラ、オオヤマザクラ、シウリザクラ、ツタウルシ、ヤマウルシ、エゾイタヤ、シナノキ、オオバボダイジュ、オカトラノオ、フデリンドウなど
- （昆虫）ノシメトンボ、コエゾゼミ、カエデハムシ、ハンノキハムシ、クロヤマアリ、エゾオオマルハナバチ、ルリシジミ、ミドリヒョウモン、キアゲハ、トンボエダシヤクなど
- （貝類）ミジンナタネガイ、バツラマイマイ、ヤマボタルガイ、マダラコウラナメクジ、コハクモドキ、コハクガイ、エゾマイマイ、ウスカワマイマイなど
- （鳥類）アカゲラ、ヤマガラ、ハシブトガラ、ゴジュウカラ、ムクドリ、キビタキ、ニューナイスズメなど
- （哺乳類）エゾリス、キタキツネ、エゾシカ



写真の説明：スシクワガタ



写真の説明：エゾマイマイ

10

生物多様性の価値

価値（6）希少な動植物種が生息生育している場あるいは生息生育している可能性が高い場

【場の概況】

希少種として確認された貝類は、樹の上で生活する樹上性の種類である。千歳市の隣の苫小牧市では、自然性の高い連続林に生息し、市街地にある孤立林には全く生息しないことが分かっている。今回敷地内の樹林で確認された個体は、昔からの生き残りであると考えられ、その期間樹林が維持され続けたことを示している。

【確認された希少種】

環境省レッドリスト2020や北海道レッドデータブック等に掲載されている希少種として、植物1種、昆虫類2種、貝類3種、鳥類1種の合計7種が確認されている。（2025年3月とりまとめ時点）



写真の説明：樹林の様子

その他

越冬、休息、繁殖、採餌、移動（渡り）など、動物の生活史にとって重要な場

【場の概況】

2023～2024年の調査において、7目25科53種の鳥類が確認されている。当サイトでは、四季折々の鳥類が出現しており、各季節において越冬、休息、繁殖、採餌、移動（渡り）などの利用が確認された。

【対象となる動物種とその動物種の生活史の内容】

- 主な繁殖種：アカゲラ・シジュウカラ、ヤマガラ、アリスイ
- 主な越冬種：ツグミ、オオマシコ、ベニヒワ、イスカ
- 移動（渡り） 事業地の樹林内で旅鳥であるマミチャジナイが確認された。
- 休息、採餌 現地調査中においても各種休息や採餌行動が確認された。



写真の説明：ツグミ



写真の説明：ヤマガラ

アカゲラの営巣



13

サイトの活動計画

活動計画の内容

1. 希少な草本植物の保全
希少な草本植物は樹林と草地の間に出現している。
適度な草刈を行うことで生育が維持されるため、生育箇所をマーキングし、草刈などで消滅しないよう、保全する。
2. フランスギクの除去
草地にフランスギクが侵入しているため、定期的な草刈りを行って、根絶を目指す。
駆除成果は生育状況のモニタリングを行って把握する。減少傾向が見られない場合は、駆除活動の内容を改善する。
3. シカ食害対策の実施
024年度に設置されたシカによる食害防止柵内外における植物生育状況調査を行う。
柵の効果があつた場合は、柵設置個所の増設を検討し、下層植生の回復を行う。
4. 樹洞性鳥類の保全
繁殖利用中の樹洞を確認し、繁殖利用中の樹洞木の近くでは、草刈などの人の活動を近傍で行う際に留意する。
また、経年的な樹洞性動物の繁殖種数・つがい数・産卵数・巣内雛数・巣立ち雛数を確認し、
環境変化が要因となる減少傾向が認められた場合は、環境改善を行う。
5. 工場見学者に対する環境教育の実施
現地調査結果を活用し、以下を実施する。
 - ・工場見学コースに生きもの紹介コーナーを作る。
 - ・工場内の樹林の様子をSNSなどで紹介する。
 また、緑地管理計画に則り、以下の管理を実施している
 - ・10月ごろに、送電線に影響のある枝に関しては剪定を実施している。
 - ・草地の草刈を年3回 6月下旬、8月下旬、10月下旬に実施している。

14

モニタリング計画の内容

【モニタリング対象】

1. 希少な草本植物、2. フランスギク、3. シカ食害植物、4. 樹洞性鳥類

備考：これ以外にも、3～5年に1回程度で各分類群の専門家同伴の上、生物調査を実施予定。

【モニタリング場所】

サイト内樹林地

【モニタリング手法】

- 1&2. 生育箇所をマーキングし、生育状況(株数、群落規模など)を経年的に把握する。
3. シカ柵設置位置内外の植物生育状況(株数、群落規模など)を経年的に把握する。
4. 樹洞性鳥類の繁殖状況(つがい数・産卵数・ヒナ数など)を経年的に把握する。

【モニタリングの実施時期及び頻度】

1. 5月下旬ごろに1回実施(2年に1度)。
2. 6～7月ごろに1回実施(2年に1度)。
3. 5, 7, 9月にそれぞれ1回実施(2年に1度)。
4. 5～8月にそれぞれ1回実施(2年に1度)。
5. 適宜実施

【モニタリング実施体制】

活動実施: 北海道キッコマン株式会社、キッコマン株式会社

モニタリング: 株式会社地域環境計画

15

観察された生物の写真

kikkoman



アカゲラ



イスカ



オオマシコ



タチツボスミレ



スジクワガタ



ミツバツチグリ



ミヤマエンレイソウ



希少種 ケシガイ

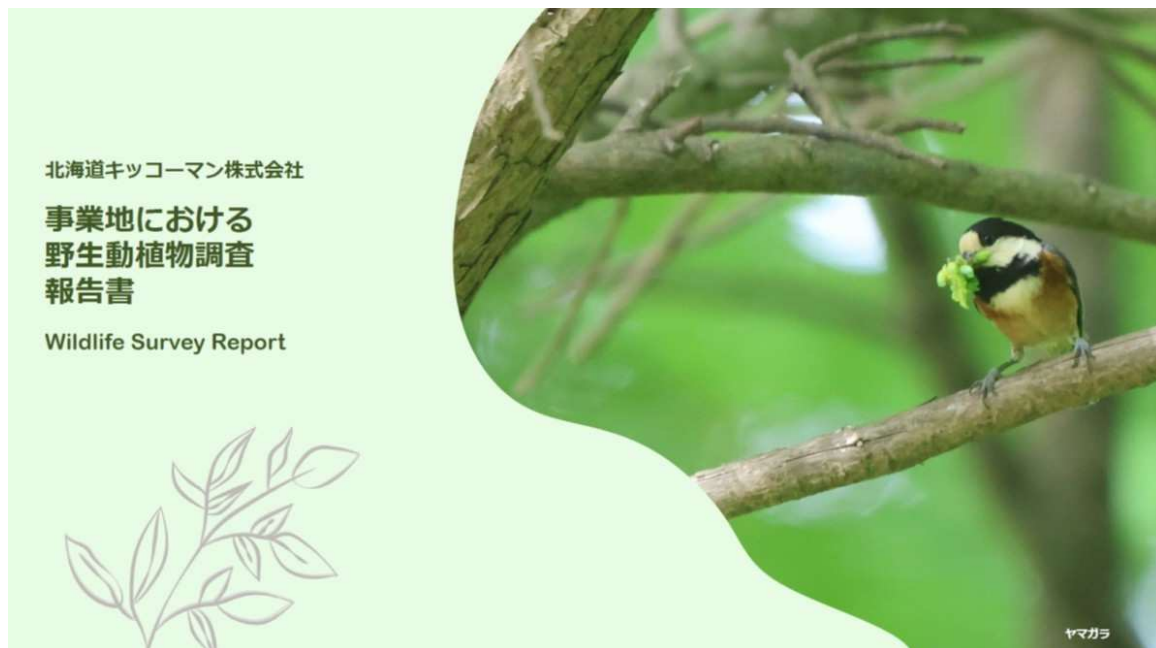


希少種 サッポロマイマイ

16

17

調査報告書をHPなどで社外への開示計画中



19

もの知りしょうゆ館（千歳）「自然共生サイト」展示計画中

展示コンセプト案：「おいしい記憶は豊かな自然から」

単なる自然保護ではなく、地域・人・企業が共に生きる「共生」の象徴



20

「北海道キツコーマン樹林地」認定取得後の課題・ 今後の活用展望と当制度への期待

21

保全活動の課題

kikkoman 

- ・ 希少種の保全 : クゲヌマランなどの希少種の適切な維持管理
- ・ 外来植物の除去 : フランスギクなどの外来植物が確認されているので、
除去活動とモニタリングを継続
- ・ シカ食害の抑制 : 生態系への影響を最小限に抑えるための、
長期的な対策実施
- ・ 持続可能的維持 : 継続的なモニタリングや人的・資金的リソースの確保

22

今後の活用展望

- 地域の自然環境に配慮しながら保全活動の継続
- 工場見学者への自然・環境教育
- HP、SNSで当社の生物多様性取組みとして発信
- 地域との連携による自然学習の場としての活用

当制度への期待

- 保全活動を継続するにあたり、補助金などの支援
- 企業価値向上に反映させるために、自然共生サイトの認知度向上

23

ご清聴ありがとうございました

24